

負けない技術

勝負所は 強くなる

入試もそうですし、スポーツや習い事等も、生活を送っていると節目節目で「勝負どころ」というものがあります。

「いざという勝負どころ」で力を発揮できる人とできない人…、この差はいったい何でしょうか？

その時ばかりではなく、日頃をよくよく見ていると、いろんなところにサインが出ているような気がします。

【片付ける】

この言葉からは、掃除を思い出す人が多いでしょう。部屋を片付けると、どこか気分も「すっきり」するものです。このことから、【片付ける】という行為は、「心」に影響を与えるようです。

スポーツなどの勝負とは、言い方は悪いですが、相手を片付けたほうが「勝者」であり、片付けられた方が「敗者」となります。そうすると、日頃から「片付けられる前に、自分から片付ける」という気持ちを持つておくことが大切なことかもしれません。

別に「やられる前に、自分からやつつけるー」なんて横暴なことを言っているのではけつてありません。

何事も、「自分から片付ける」というクセをつくらう…とやっているのです。

また、勝負どころで弱いという人のサインの一つに、学校生活の中では、「宿題や提出物など、自分のことを自分でさっさと片付けることができない」という面が見られます。

ややもすると、九月になつても十月になつても、夏休みの宿題をしている人がいませんか？今のこの時期に、まだ冬休みの宿題の提出が終わっていないという人はいませんか？

物事を「片付ける」間に合わせる「ためには、その瞬間瞬間で、いろいろなことに気づき、「これは大事なことからか」「今の自分の優先順位は何なのか」…等々の考えを巡らせ、行動し、「約束」までに済ませていかなければなりません。

その感覚が身につく、当たり前になつていくと、

勝負どころでも受け身ではなく、自分で気づき、「主導権」を自分で握れるようになるものです。

「宿題、まだやってないの？」「まだテスト勉強始めてないの？」…といったことを先生や保護者の方からよく言われてませんか？そんな人は、「間に合わせる」ということができない人、もしくは苦手な人と言えます。

何事にも片付けるということ、自分でできない人は、大事なときも受け身であり、片付けられる人「間に合わない人」にまわつてしまうものです。

第二十号の通信で書いた「時間を守る」とことで「あて」にされる、と同じことが言えるかもしれません。

日頃から、「約束した時間を守る」ということを意識した一つ一つの積み重ねが、「間に合わせる」「片付ける」というクセづくり（良い習慣づくり）につながります。

締め切りの期限は、「他人」と約束しますが、「絶対守るー」という約束は、「自分」とするものです。

子どもは、自分のわがままは許せるけど、他人のわがままは許せません。「自分のわがまま」が自分で許せなくなった時、大人になるのかもしれない。

結局、「（人生の）勝負どころ」で勝つためには、相手を片付けるため（にどーのこーの）、ではなく、

自分の心を「片付ける」ことが早道なのですね。